

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	熊野町立熊野第四小学校	校長	堂本 啓介	担当者名	出野 薫
取組事例名 『人の役に立つことに喜びを感じる児童の育成』					
○	生徒指導に係る連携体制の確立		カウンセリング・マインドを もった教職員と児童生徒との対話	○	主体的な活動を通じた絆づくり
取組における育てたい資質・能力					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人の役に立つことを進んで実践する力</li> <li>・一人一人を大切にし，友だちを肯定的に見ていく力</li> </ul>					
取組のねらい					
<ul style="list-style-type: none"> <li>○人の役に立つことを進んでやる児童を育成する。</li> <li>○「学校楽しいーと」を活用し，児童の学校適応感を把握するとともに居心地の良さを感じる学級集団を目指す。</li> </ul>					
取組の具体的内容			取組の創意工夫		
<p>1 人の役に立つコーナー</p> <p>児童玄関のそばに，友達が人の役に立っている姿を掲示できるコーナーを作り，友達の素敵な姿に気づかせる。</p>  <p>2 「学校楽しいーと」の活用</p> <p>① 「学校楽しいーと」を実施するにあたり全教職員で研修を行う。</p> <p>② アンケートを実施・分析する。(学期ごとに実施)</p> <p>③ 分析結果をもとに，各学級の課題，目標・取組内容を設定する。</p> <p>④ 活動計画を実行・修正する。</p> <p>4年生「4ねりんびっく」児童が企画運営する大会</p>  <p>6年生「熊四の伝統をつなごう」～和太鼓演奏～</p> <p>⑤ 成果を点検・課題を検討・見直し修正をし，新たな計画を立案する。</p> <p>3 教職員の情報共有</p>  <p>① 支援の必要な児童について，ケース会議を開き，支援内容を全教職員で共有する。</p> <p>② 不登校傾向のある児童などが利用できる「くまのこルーム」を設置する。定期的に不登校等支援会議を開き，不登校傾向のある児童の情報交換を密にする。</p>			<p>○友達の素敵な姿とその姿を見つけた児童について，定期的に全児童に披露する。</p> <p>○分析結果をもとに学級ごとのストロングポイントとウィークポイントを見つけ，ポイントにあった活動計画を立てる。</p> <p>○活動内容が児童たちにどのような成果があったのかアンケートにより分析し，次の目標を立てていく。</p> <p>○他の学級の取組を交流し合う場を設け，情報交換する。</p>  <p>○だれもが自分と向き合ったり心を落ち着かせたりすることのできる場を作る。また，定期的に情報交換することで，細かな支援ができるようにする。</p>		
取組の成果と課題					
<p>○学級集団における適応感の増加が見られたことは，「学校楽しいーと」の分析からの取組が影響したと考えられる。取組を振り返り課題や修正箇所を整理してより良いものにしていくために，ぜひ来年度も実施したい。</p> <p>(「学校楽しいーと」アンケート結果 学校適応感の項目 1学期→2学期・・・4年生 0.21ポイント増・6年生 0.235ポイント増)</p> <p>○不登校傾向のある児童の欠席日数が減少し，学級に上がる回数が増えた。和太鼓の練習に向けて担任による粘り強い声掛けや友達の変わらない接し方が児童の行動の変化につながり，友達と力を合わせて和太鼓の練習に取り組めたことは，本人の自信につながった。(A児欠席：昨年度 100日→本年度 1月末現在 28日出席停止含む)</p> <p>○コロナ禍で制限のある中，何が必要か全教職員で考え取り組んできた。今後も児童の笑顔を絶やさないための取組を，改善を繰り返しながら全職員で力を合わせて進めていきたいと改めて感じた。</p>					